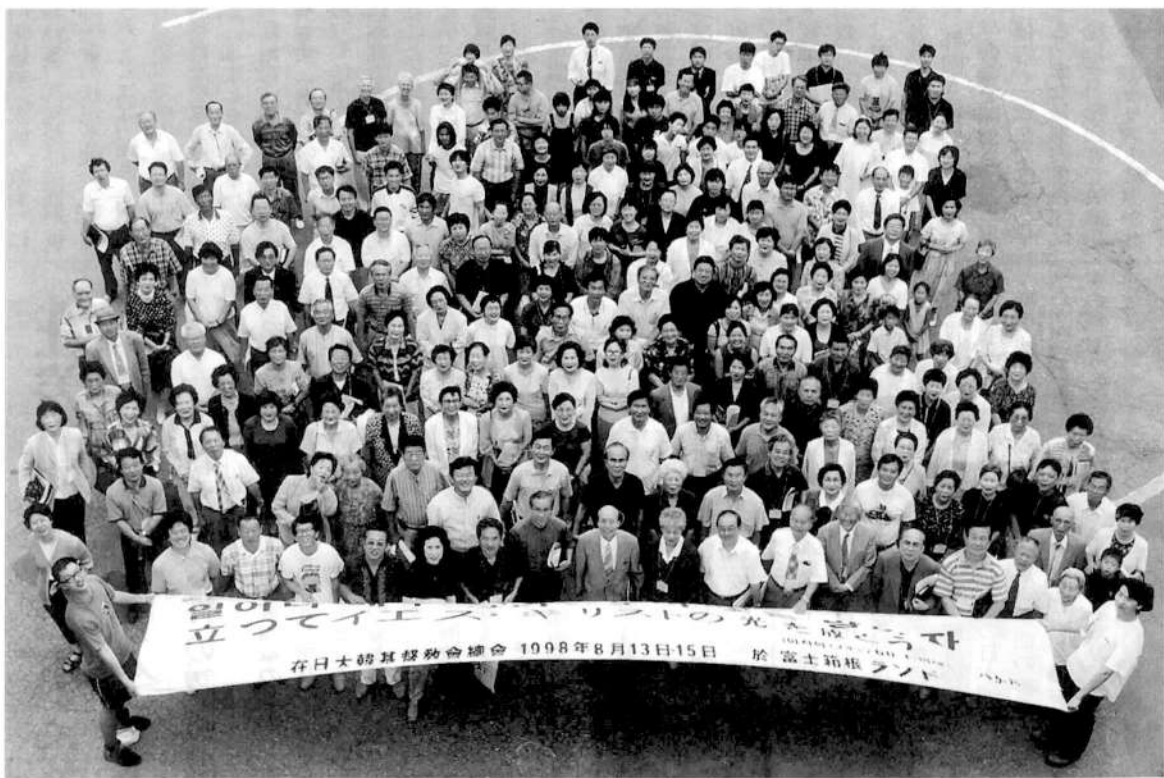


1. 自立된 100教会의 設立
2. 主님의 일꾼의 養成
3. 작은 이웃들과 함께 사는 宣教
4. 在日同胞의 삶에 同參하는 奉仕

21世紀に向けてのKCCJ像を

300名が集まり、箱根で記念合同研修会を開催



八月十三・十五日、神奈川県箱根ランドにおいて、宣教九十周年記念合同研修会が盛況の中、行われた。これまで教役者・長老研修会、女性会、全協などのそれぞれ全国修養会が毎年行われているが、合同で行われるのは約三十年ぶり、今回は青年(十二日から)、高校生・児童や部分参加者、合わせて三百一名が参加した。

準備委員長・金性済牧師(川崎)の司会、総会長・慶恵重牧師(品川)による「帯を締めて立て」という題目の説教の開会礼拝によって三日間のプログラムが始まった。

特別講演では韓国富川第一教会名譽牧師・崔基範監督が、自身の牧会経験から「健全教会形成と成長」を講演。現在も総会内のいくつかの教会支援を続け、物心両面での基礎作りについて独特の持論を展開した。講演②は現在、米国ケンタッキー州リッチモンド・

ユニオン神学校教授の李昇萬牧師が「二世紀に向けてのディアスポラ教会のビジョン」を講演した。韓国から米国に移住し、米国NCC議長を務める李牧師は自身のディアスポラとして生きる移民・僑民観を、過去を振り返りながら、現在・未来に見えるものを、若い世代に熱くメッセージを送った。

なお今回は、全ての講演に同時通訳が施された。また早天礼拝は、二回とも長老会が担当し、二日目は司会・金照男長老(名古屋)、奨励・玄承領長老(神戸東部)、三日目は司会・李炳林長老(奈良)、奨励・呉大錫長老(東京)がそれぞれ担当した。

男長老(大阪)の司会によるスピリチュアルアワーが行われた。体育館を借り切ったの多人数の交流会で、女性会の合唱と舞踊、高校生による自作曲の合唱に続き、全協のスタンツが披露され、普段あまり目にするような様々な姿を、お互いに楽しむ場となった。最終日の全体討論では全参加者が一堂に会し、様々な意見の交換がなされた。特に、青年の率直な意見も聞かれ、合同研修会の意義を顕著に示めし

今回の研修会では、一部施設への不備、不満があったものの、準備委員長の金性済牧師を中心に準備委員会が何度も行われ、当日も通訳や事務局員として神学生や若手教役者ら十二人が常駐し、記念研修会を裏から盛り上げた。

閉会礼拝は、例年この日に行われる全協の「八・一五礼拝」としてもたれ、朴忠勇全協総務(大阪西成)の司会で、記念事業実行委員長・崔正剛牧師(福岡中央)の説教の後、青年によるマダン劇、愛餐会があり世代を越えた交わりの結実に感謝にむせぶ姿も多く見られる中、三日間に及ぶ記念合同研修会の幕が下ろされた。

『在日と教会の現在を考える』

人権シンポを開催

宣教九十周年を迎えて第十二回KCCJ人権シンポジウムが、七月十九日から二二日まで関西セミナーハウスで開催された。「在日同胞の将来とKCCJの宣教」二世紀に向けてのマイノリティの役割」の主題のもと、総会関係者のほか、日本の各キリスト教団体、韓国NCCの代表ら四名が参加した。

一日目は開会礼拝で李大京牧師による「道端に追いやられた人々」(マルコ10・46・52)の説教、姜栄一総務の開会挨拶に続いて「人権シンポジウム二十年の歩み/KCCJと人権宣教」と題して、李清一牧師から基調報告があった。

その中で、総会の宣政政策の転換点ともいえる宣教六十周年(一九六八年)に「キリストに従ってこの世へ」が掲げられ、一九七〇年十月には「在日大韓基督教総会の社会的責任に関する態度表明」、さらに一九七四年五月にはKCCJの第一回「マイノリティ問題と宣教戦略」の主題で世界各国のマイノリティと連帯して国際会議を主催した意義が強調された。七〇年代の出入国管理法反対運動や、日立就職差別撤廃運動、八〇年代の指紋撤廃運動が主導的な出来事であった。九〇年代に入ると、戦後補償、従軍慰安婦問題の取り組み、地方公務員国籍条項撤廃運動、さらには、地方参政権獲得運動へと展開され、今回のシンポジウムの中心課題である「外国人住民基本法」制定運動に至ったことなど、今までの

KCCJの宣教と人権の二十年の取り組みと歩みを、年代を追ってわかりやすく具体的に話された。二日目は金聖孝牧師の聖書研究から始まった。「神の御心を行なうイエスの兄弟、姉妹、母/在日宣教への祈り」(マルコ3・31、35)と題して、疎外された人々(群衆)とイエスの家族を対比させながら、権威主義や血縁でもない、神の御心を行なうとすることの御心こそが、私の兄弟、姉妹、母だと言った。まさにこのイエスの非日常性こそ逆説の真理をもたらすと、ユモア一杯に語られた。

次に金東勲教授の「外国人住民基本法の制定に向けて」の講演があった。日本国憲法のみならず、日本がすでに加入した、国際人権規約、難民条約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約、人種差別撤廃条約などすでに確認された人権の基本的な枠組みを外国人住民の立場から法制化されたものであることの説明があった。これまでの人権運動の一つの大きな結果として、さらに今後の大きな課題としてこの法律の制定に向けての関心と運動が重要であることが語られた。在日外国人が自らの主体性をもって日本人と共生し、これからの教会の使命と役割として「在日」のマダンとしての働きが一層求められ、このためにキリスト教会がさらに具体的な取り組みをすることを目指す、と語られた。

午後からは二つの貴重な発題があった。発題①「精神科医療からみた在日韓国人・朝鮮人」と題して金長寿長老は、精神科医の立場から多くの患者の症例を通じて、機能不全家族の下で育ったアダルト・チルドレ

また発題②「女性の視点から見た在日家族共同体」と題して曹賢戸執事は、身近な在日の家族の葛藤やアフリカにおける原住民の学びを通して、いかに民族差別や性差別を克服すべきかを語られた。また教会は人や金を貯えるのではなく、「キリストに従ってこの世へ」送り出すものであらねばならないと訴えられた。その後、参加者は分団に分かれて、活発な意見の交換がなされた。

三日目、最終日は全体協議が持たれ、各分団報告の後、声明文を採択した。朴米雄牧師による「二人をさがすイエスさま」(ルカ15・1・10)の閉会礼拝説教において、一つの命の尊厳について学んで、すべてのプログラムを終えた。



私たちは、在日大韓基督教(「KCCJ」)社会局、在日韓国基督教教会(KCC)C、在日韓国問題研究所(RAIK)、西南在日韓国基督教教会(SKCC)の主催のもと、第十二回KCCJ人権シンポジウムを一九九八年七月一日から二日まで、京都のクリスチャン・アカデミー関西セミナーハウスにおいて開催した。このシンポジウムの主題は「在日同胞の将来とKCCJの宣教/二世紀に向けてのマイノリティの役割」であり、在日大韓基督教教会をはじめ、日本キリスト教協議会、日本基督教団、日本基督教九州教区、日本キリスト教会、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ協)、外国人登録法問題と取り組む広島キリスト者連絡協議会、外登法の抜本的改正を求める九州・山口キリスト者連絡協議会、韓国基督教教会協議会正義と人権委員会の代表ら四二名が参加した。

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。と同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

第12回KCCJ人権シンポジウム声明文

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。と同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。と同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

私たちは、在日大韓基督教(「KCCJ」)社会局、在日韓国基督教教会(KCC)C、在日韓国問題研究所(RAIK)、西南在日韓国基督教教会(SKCC)の主催のもと、第十二回KCCJ人権シンポジウムを一九九八年七月一日から二日まで、京都のクリスチャン・アカデミー関西セミナーハウスにおいて開催した。このシンポジウムの主題は「在日同胞の将来とKCCJの宣教/二世紀に向けてのマイノリティの役割」であり、在日大韓基督教教会をはじめ、日本キリスト教協議会、日本基督教団、日本基督教九州教区、日本キリスト教会、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会(外キ協)、外国人登録法問題と取り組む広島キリスト者連絡協議会、外登法の抜本的改正を求める九州・山口キリスト者連絡協議会、韓国基督教教会協議会正義と人権委員会の代表ら四二名が参加した。

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。と同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。と同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日



性差別問題小委員会
第一回学習会を開催
新たな性認識変革に本格始動

性差別問題小委員会(総会社会局)の本格的な活動が始まった。六月二十日、大阪教会での第一回学習会には、三十名が集まった。基調報告は金聖孝社会局長が行い、いかにも固い名称をもつ本委員会の雰囲気をもっと伝えるべく、ユーモアいっぱい委員会を経過を報告し、そして「理念案」が読まれ活動方針を示した。さらに、学習会委員自身が学び、研究し、それを人びとに問いかけ、分かち合い、切磋琢磨し、発信して実践する場であり、今回の発題を委員自身が受け持つことには大きな意味があると話された。

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日

私たちは、この「外国人住民基本法(案)」が長年の闘いの結実であり、何よりも宣教九十周年にあたって掲げられた標語「立つてイエスキリストの光を放とう」とする働きの一つである、と確信する。同時に、イエスキリストの福音の光を閉じ込めてしまおうかのよう、在日一人一人の自由な生き方が他者によって決められ、その生き難さ、喘いでいる同胞の叫びに、私たちの闘いは本当に応えてきたのかを自らに問い、同胞の生の現場に遭わされる使命を再確認する。在日



関東地方会会 音楽集會
世界的バイオリン・スト ノミシヤン 公演

総合討論では玄承植委員(神戸東部教会長老)の司会で、活発な意見が交わされた。地方会の社会部の牧師や長老、男性の参加が少なく、という意見なども出された。約三十名の出席者のうち男性が八名というのは、各教会での男女比率がそのままだと反映しているとの見方もできる一方で、「性差別」の実態が私たちの教会でいかに課題となりにくいかを現わしているとも考えられる。

韓国家庭料理

有限会社 高馬宇

代表取締役 金元洙
(東京中央教会長老)

本店 〒105-0004 東京都港区新橋3-18-4
TEL 03 (3431) 3921, 03 (3435) 7809
FAX 03 (3435) 0706

荏原中延店 〒142-0063 東京都品川区中延2-8-13
田畑実業ビル1F
TEL 03 (3785) 1020

愛三産業株式会社

(株) 済州カントリークラブ

取締役会長 白昌鎬
(東京教会 長老)

取締役社長 白一善
(東京教会 執事)

本社 〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-6-4
TEL (03) 633-7477(代)
FAX (03) 631-7703

株式会社 ニューキング 愛

有限会社 三

取締役社長 李鍾善
(名古屋教会 長老)

ニューキング 四日市市野田1丁目965-1
TEL (0593) 31-4771(代)

三 愛 岡崎市大和町字荒田14-1
TEL (0564) 31-8893(代)

一宮伝道所が開所礼拝

洪領見講師が赴任

七月十二日、一宮伝道所の開所式が、日本聖公会一宮聖光教会堂にて厳かに行われた。

まず臨時堂会長・金鍾吉牧師(岐阜)の司会により礼拝がもたれ、李建豪長老(名古屋)の祈祷、金承弼牧師(大垣)が「主はキリストです」(マタイ16:13、20)という題目で説教があった。続いて地方会書記・表明徳牧師(岡崎)の司式により開所式が執り行われ、開所宣言された。また金鍾吉牧師による経過報告、朴茂樹牧師(浜松)らによる勧勉、そして赴任する洪領見講師による挨拶がもたれた。



平和の火として50年

広島教会が50周年記念礼拝 創立50周年記念誌も発行

七月五日、広島教会が創立五十周年を迎え、盛大に記念礼拝が執り行われた。この日、午前十時三十分より堂会長・金信煥牧師の司会、総会総務・姜栄一牧師の説教により感謝礼拝がもたれ、午後二時より金信煥牧師の司会により記念式が行われた。

記念式はまず、企画委員



聖光教会堂において礼拝がもたれた。現在、洗礼会員七名、求道者三名。赴任する洪領見講師は一九五四年に宮城県にて出生、九〇年に岐阜教会にて金桂吳牧師より受洗。九七年に農神学校を卒業後、同年六月に中部地方会において講師認定を受け、同伝道所にて奉仕し、現在に至っている。

西南地方会と九州教区が韓国で懇談会開く



西南地方会と日本基督教団九州教区の三役、崔榮信会長、金健副会長、朱文洪書記と、東島勇義議長、倉

新たな韓日の交流に

西新井教会で韓日教会交流会

六月二八日、西新井教会において、「第三回韓日教会交流会」がもたれた。日本基督教団東京教区・東支区の諸教会と、東支区内にある在日大韓の諸教会との交流会である。毎年一回、教団側と在日大韓側が互に会場を提供し、定期的に催されている。今年は蒸し暑いなかを、教団側が十四教会、在日大韓側が四教会からの参加があり、総勢八十余名が集まり、盛会であった。

第一部の合同礼拝は、司会を金太徳長老(西新井)説教は「新しいアイデンティティを求めて」という説教題で、韓聖炫講師(西新井)が、聖餐式は権寧国牧師(東京日暮里)が担当した。

第二部は申鉉錫牧師(東京グロリア)の司会で、讃美と交流の時間を楽しくもった。教団・西新井教会の聖歌隊や在日大韓・西新井教会の聖歌隊がすばらしいハーモニーをそれぞれ披露し、クリスマス・ソングを両聖歌隊が韓国語を交えて合同で歌った。

10月末に教団の宣教協議会開催

実務者会議で具体的内容決定

八月二七日、日本基督教団会議室において日本基督教団の第三回実務者会議が開かれた。出席者は教団から小澤貞雄総幹事、荒井

橋康夫副議長、伊勢富士夫書記の六人が相互理解と交わりを深めるための懇談会を韓国で行った。

五月十八、二二日、韓国教会百周年記念館を宿所にし、独立記念館をはじめ三八度線近くの台風展望台、三・一記念公園等を見学した。水曜祈祷会にはソウルの西大門教会で合同礼拝をし、韓日教会の交わりや、活気に溢れる南大門市場などで買い物。美味しい韓国料理、親切な隣人との出会いを楽しんだ。

(報告 朱文洪牧師)



総務活動日誌

- 分科会(五分団)を持ち、さらに委員会・局としての交流指針を受けての分科会(三分団)がもたれることとなった。また、全体協議において合意文書が作成することに、意見の一致をみた。
- 海外韓人教会協議会
日時 八月二〇、二二日
場所 済州
- 日本基督教団との実務者会議
日時 八月二七日
場所 教団会議室
- 行事
○ 宣教九十周年記念合同研修会
日時 八月十三、十五日
場所 富士箱根ランド
- 説教
○ 東京ベテスダ教会
日時 八月二三日
- 住所変更のお知らせ
朴太元牧師(総会幹事、関東地方会)の住所が変わりました。
- 公告の訂正
一月号三面の大阪上町教会の公告において、「②土地と建物と預金を担保に」と訂正いたします。
- 前月号の訂正
八月号二面の記事「中部地方女性連合会」において、岡崎教会・金美淑牧師の名前が間違っていました。ここに訂正いたします。

장미

韓国食品・書籍・CD・ビデオ

(株)韓国広場

新宿店: 東京都新宿区大久保1-17-7
TEL (03) 3232-5400
FAX (03) 3200-2949

代表取締役 金根熙

不動産業務全般

免許番号・愛知県知事③第5426番

太栄企業株式会社

代表取締役 金光洙
(名古屋教会 長老)

事務所 名古屋市中熱田区川並町2番21号
(名古屋中央卸売市場入口南側大栄ビル)
電話 052(682)1177(代)

自宅 名古屋市中種区御影町2-55-5

海外出張の際に
国際携帯電話を
レンタルいたします。

(株)ジービーエス コミュニケーションズ ジャパン

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目12番7号
京橋山本ビル
電話 03(3564)1241(代)
FAX 03(3564)1219

特販営業部長 朴仲弘

トレイユニアムに参加して

ーインディアナポリスとアイオアで過ごした夏ー

金 真 伊 (川崎教会)



参加者の前でスピーチする金真伊さん

七月一日から二六日まで、アメリカのインディアナポリスにあるバプティスト大学において開催された三年一度の、長老教会が合同で主催するプログラム「トレイユニアム」(青年三年大会)に、在日韓国人代表として参加しました。

海外からの参加者は約百五十人で、日本からは十名、韓国からは十四名の代表者が参加。初めの三日間は、海外からの代表者(グローバル・パートナーと呼ばれる)のみ、オリエンテーションをもちました。その後、アメリカ、カナダの各地に散らばり、十日間ホームステイをしました。

私は日本人の代表者と共にアメリカのアイオワ州に行き、六人のホストファミリーに案内してもらいました。アイオワ州は農業がとても盛んで、見渡す限りと

うもろこし畑と豆畑。他のメンバーは二人ペアになって四つほどホストファミリーをまわるのですが、私の場合、一人で六人の家をまわるという過酷なスケジュールを言い渡され、正直言ってここで十日間も何をしようか、とても不安でした。しかし、皆とても親切で、様々な計画をしてくれました。農家に連れて行ってもらい、思存分馬と走り回り、芝を刈ったり、老人ホームに行ったり、日本語で賛美歌を歌ったりと日本では経験の出来ないことを満喫しました。

トレイユニアムでの感想ですが、一言で言えば、大学の試験日をずらしても参加して良かったということです。急な話だったのでとても迷いました。試験日が重なったことも大きな理由の一つですが、まだまだ英語も未熟で、私が在日韓国人代表などという大きな役割を引き受けてよいものかと自信がありませんでした。しかしその一方、神様が与えてくれたこんなチャンスを選びました。

私のスピーチは十分程度でしたが、その内容は、①強制連行の歴史、②現在の日本社会における在日韓国人・朝鮮人に対する様々な差別の状況、③私が日本国籍を持ちながらも韓国名を名乗る理由、④なぜ日本に存在しているのか、⑤これからの日本社会に期待することや、在日のあり方についての話です。

終わつたあと、スピーチのコピーをほしいという人が殺到するほどでした。やはり、在日韓国・朝鮮人問題に関して知っている人はほとんどいない、韓国の代表者たちも今日日本で起きている現状に驚かされていました。

私が一番印象に残っていることは、オリエンテーションの間の礼拝です。毎日三十分ほどみんなで賛美歌を歌ったのですが、そのとき日本語でも歌いました。世界各国からきた言葉

の違う百五十人がひとつの言葉で賛美歌を歌った時、感動と共にこみ上げてくる涙を止めることが出来ませんでした。

また、グローバル・パートナーの母国で抱えている社会問題(戦争や人種差別など)にも、驚かされました。一緒に二週間過ごしたボスニアの子が言った言葉の中に、「トレイユニアムを終えると、また内戦の起こっている母国に帰らなければならぬ。プログラムの間も家族が無事かどうか分からない。でもこの問題を世界中の人に伝えたくてここにきた」という衝撃的な言葉がありました。そして驚かされたと同時に、在日問題だけを見つめていてはいけないと思いました。

トレイユニアムのプログラムの内容は、オリエンテーションの時には「自分の母国のステレオタイプは何か、そこどのような誤解があるか」「アメリカのステレオタイプは何か」を国ごとに発表しあったり、また自分の国の挨拶の仕方などの紹介をしたりと、私としてはとても興味深い内容でした。三日目からは礼拝がほとんどで、そのほかに分団、レクリエーションがあり、礼拝の中に歌や踊り、劇などの楽しいプログラムが多く組み込まれていました。

今回の参加では、さまざまな経験ができ、世界の現状の中で私のすべきことが何かを考える機会が与えられました。しかし、こんな貴重な経験を私一人しか出来なかったことがとても残念です。次回はぜひもっと多くの在日大韓教会から代表者を送られることを望んでいます。

在日同胞関係日誌 1998年 4月6月

●四月十日 一九八六年、指紋捺捺拒否を理由に再入国不許可処分を受け、そのまま留学のためアメリカに出国して永住資格を剥奪された崔善愛さんが、国に処分取消と永住資格確認を求めた訴訟で、最高裁判決が覆されて、最高裁判決を覆して全面的に不当判決を出した。

●四月二四日 沖縄県人事委員会は、今年度の職員採用試験から警察官と警察事務を除くすべての職種について、国籍条項を撤廃すると発表。

●四月二七日 第二次世界大戦中、従軍慰安婦や女子勤労挺身隊員にされた韓国人女性十人が、国に損害賠償と公式謝罪を求めた「関釜裁判」で、山口地裁下

●四月十日 元慰安婦三人に慰謝料として三十万円ずつ支払うよう命じる画期的な判決を言い渡す。

●五月七日 韓国の保健福祉省は、元従軍慰安婦百十数人に対して、一人当たり三二五〇万ウォンの政府支援金を支給。民間募金からも、一人当たり四一八万ウォンが支払われる。

●五月十三日 在日作家・梁石日さんが、第十一回山本周五郎賞に決定。

●外登法問題と取り組む全回キリスト教連絡協議会の共同代表の大津健一・NCC総幹事、姜榮一・総会総務ら十人が、外登法の抜本改正を求める緊急署名五〇三三分を法務省に提出。

●五月十四日 「国会の手で調査会をつくり真相究る」

●六月二日 川崎市ふれあい館の十周年記念公演、「コリア伝統文化を舞い、打ち、踊る！」が行なわれ七百余人余りが参加。

●六月二日 日本戦争中、旧日本軍に志願、爆撃を受けて右腕切断の重度戦傷を負った金成寿さんが「自己の意思によらず日本国籍を失ったことを理由に、恩給を支給しなかつたのは、法の下の平等を定めた日本国憲法に違反する」として損害賠償を求めた裁判で、東京地裁は請求棄却の判決。

(作成 RAIK)



大阪教会が 韓国姉妹教会を 訪問

七月四日(土)부터八日(水)까지 堂会員、牧師、勸士等十七名が釜山楊停教会を訪問、楊停教会の創立四十五周年記念礼拝に参席하였다。

七月五日主日は一・二部礼拝、説教に盧政一牧師、祈禱に金永煥長老と趙仁衡長老、三部礼拝は金徳成牧師が説教、祈禱に金鉄斗長老、四十五周年の祝辞に許唱業長老が担当하였다。午後三時부터の任職式에는盧政一牧師が祝辞と勸勉を担当하며行事に参与하였다。

親交の行事로慶州와백암 및 聖留窟을 觀光하여祖國の歴史에 対한 對話를 나누게 되었다。慶州의 옛文化와 景教(中國唐나라 때의 基督教)의 歴史를 생각하였고、聖留窟은二億五千年の天然記念物임을 배웠으며 가슴 아픈歴史로서壬辰倭亂(一五九二-一五九九年)때住民과義兵五百餘名이 倭兵을 殺害하고 入口를 倭兵들이 縫合하여 戦死시킨 이야기는 이곳을 訪한 訪問者들에게 歴史를 傳授하였다。

金徳成牧師が説教、祈禱に金鉄斗長老、四十五周年の祝辞に許唱業長老が担当하였다。午後三時부터の任職式에는盧政一牧師が祝辞と勸勉を担当하며行事に参与하였다。

楊停教会は一九五〇年六・二五戦争때釜山까지 내려온避難民들이十餘名 모여 천막에서 시작하여 오늘날의釜山地域에 大教会로 成長하였고、海外의 大教会와 함께 뜨겁게 宣敎하는 教会이다。

在日大韓基督敎會 宣敎90周年記念式典

標語「일어나 예수 그리스도의 빛을 말하자」/「立て イエス キリストの光を放とう」

●日 時：1998年10月10日(土)午後1時～4時30分

●場 所：大阪 玉造マリア大聖堂

〒540-0004 大阪市中央区玉造2-24-22
TEL06(941)2332 FAX06(941)2605

○第6回 祖國の平和統一と宣敎に關するキリスト者大阪會議
日 時：1998年10月8日(木)～10日(土)
場 所：大阪教會
主 題：「21世紀の文明史的転換と民族共同体の未来」

○教育局主催 全國教會學校教師大會
日 時：1998年11月1日(日)～3日(火)
場 所：浜名湖

○宣敎90年史編輯 個教會史、各地方會史、各機關史
○歴代牧師説敎集 出版、在日ソング・讚美歌 公衆・制作